

城だより

第667号

日本古城友の会・会報

令和6年(2024)7月7日発行

紀伊 友ヶ島砲台を訪ねる (8月・第730回例会)

日時：令和6年8月4日(第1日曜日)現地集合 荒天時行程変更有り

集合：南海加太線 加太駅集合 9時30分 加太港まで徒歩移動(20分程要します) 加太港 10時 出航のフェリーに乗船(旅客運賃：往復2,200円)

行程：野菜浦^{のなうら}棧橋 → 第3砲台 → タカノスヤマ展望台(昼食) → 幸助^{こうすけまつ}松海岸・池尻台場 → 第1砲台・友ヶ島灯台 → 第2砲台 → 池ノ前台場 → 小浦台場 → 野菜浦棧橋 → 加太港 ※帰りのフェリーは15時30分の予定

アクセス：南海難波駅 特急サザン3号(一部指定) → 和歌山市駅 → 加太線加太駅
7:45 発 8:43 着(乗換) 8:51 発 9:16 着

担当幹事：岸本征剛 森田又一

持ち物：弁当と飲み物(現地調達不可。事前に用意しておいてください。特に、飲み物は二本以上ご用意ください。)
敷物・帽子・雨具・第3砲台見学時に足元が暗い為、懐中電灯をご持参ください。マスク着用は各自の判断をお願いします。

※参加申込みについて 事前申込なしで参加できますが、以下の点に御協力ください。

友ヶ島へのフェリーの定員は100人程度で、例会当日は夏休み期間にあたり混雑が予想されるため、事前に参加人数を把握することとします。参加される方は7月28日までに担当幹事の岸本あてメールで連絡してください。電話でもOKですが、連絡時刻に御配慮ください。(メールアドレス：rotomisutorofu001@gmail.com)

問合せ：岸本征剛 070-4462-0740 (土日以外は午後6時から22時)

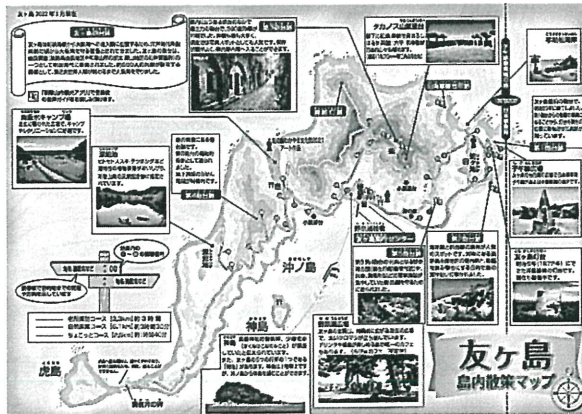
(開催は新型コロナ感染状況によります。必ずホームページを確認の上ご参加ください。)

【今回の見どころ】

紀淡海峡を閉塞して大阪湾への敵艦の侵入を阻止すべく立案されたのが友ヶ島砲台を含む由良要塞でした。紀淡海峡は和歌山県の田倉崎と淡路島の生石鼻の間の海峡でその幅は約11kmであり、その間に友ヶ島4島(沖ノ島・虎島・神島・地島)が浮かんでいますが、そのほぼ中央に浮かぶ沖ノ島から淡路島の間が約4~5kmと一番広いのでその防備の為、砲台築造が進みました。

友ヶ島砲台の建築は明治22年9月に始まり、

明治31年4月に友ヶ島第1砲台から第5砲台・虎島堡壘の六ヶ所の砲台の工事が終



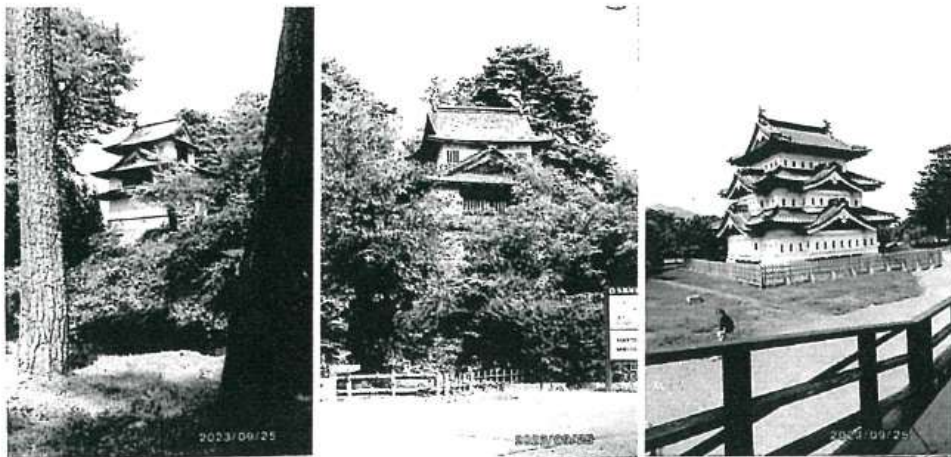
(友ヶ島島内散策マップ 和歌山市観光課作成から)

守は曳家で 50m 北に移動され、寂しそうに鎮座しています。昭和 58 年 (1983) 5 月の日本海中部地震後に石垣に膨らみ (ハラミ) が出来積みなおしの工事が平成 26 年 (2014) に始まったのですが、完成は早くても令和 7 年 (2025) になるとのことで、このペースではまだまだ時間がかかることでしょう。

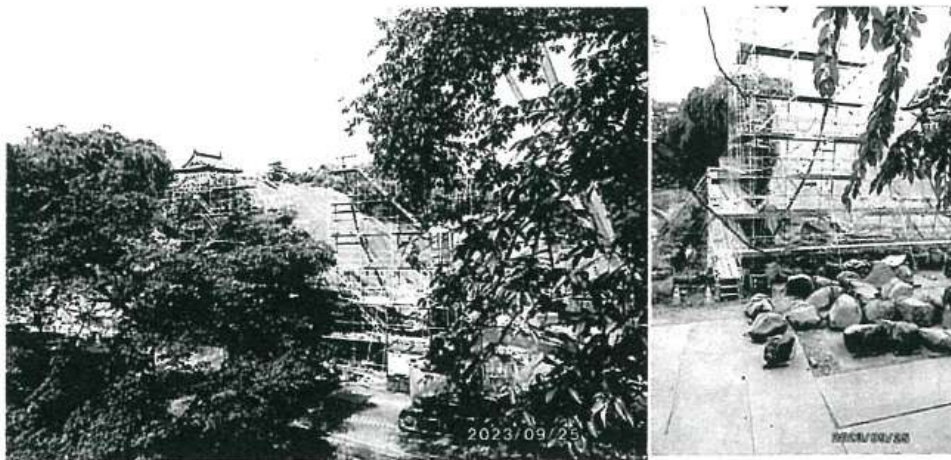
本丸北にある展望台から岩木山の雄大で美しい姿に感嘆し、北の郭、四の丸、北虎口北門の落ち着いた光景を堪能しました。北の丸には現在解体された天守台下の石材が寂し気に「早く戻して!」と叫んでいるように悄然と並んでいます。

弘前城は津軽を統一した津軽為信、二代信枚により慶長 8 年 (1603) に築城が始まり同 16 年 (1611) に完成し、明治まで存続した 10 万石の名門大名の居城。御三階櫓、三つの櫓、五つの城門は重要文化財になり、本丸・二の丸・三の丸・四の丸・北の丸・西の丸からなる広大な城郭です。春になると 2,600 本もの桜が満開となり、沢山の観光者で賑わいます。本当はこの時期に見たいのですが、特に西堀の桜は 300 本が鮮やかに咲き誇ります。

今回は家族とのお城見学でフリーにはなれませんでした。孫もお城好きになることを願い、雪中行軍で有名な八甲田山へと向かいました。(完)



(杉の大橋から見た二の丸末申櫓 (左) と同辰巳櫓) (曳家で移動した天守)



(本丸東面石垣修復工事の様子 (左右とも) 背後に移動した天守が見える)



(北門 外堀に架かる亀甲橋から撮影)

日本古城友の会

会長 中西 徹

事務局 事務局長 平川 大輔 〒557-0044 大阪市西成区玉出中 2-11-28

HP アドレス <http://www.kojoyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力